

プレス・リリース

開館10周年記念展

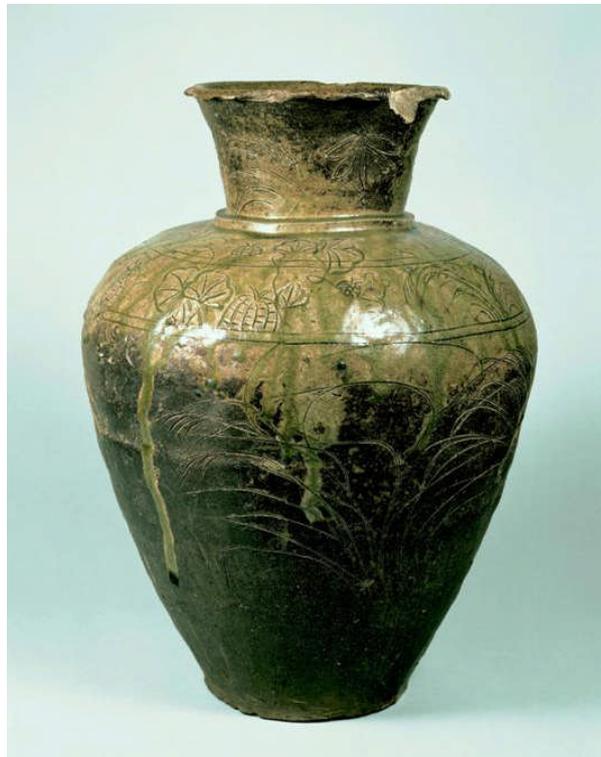
古陶の譜

中世のやきもの― 六古窯とその周辺 ―

平成23年1月2日(日)～3月21日(月・祝)

国宝、重文12点！中世陶器の重鎮、一堂に会す！

(キャッチコピー)



渥美 「灰釉秋草文壺」 12世紀

国宝 慶應義塾蔵

茨城県陶芸美術館

IBARAKI CERAMIC ART MUSEUM

〒309-1611 茨城県笠間市笠間2345番地(笠間芸術の森公園内)

TEL:0296-70-0011 / FAX:0296-70-0012

<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

1 展覧会名

古陶の譜 中世のやきもの

— 六古窯とその周辺 —

英名：Ceramics of Medieval Japan: The Six Old Kilns and Their Environs

キャッチコピー：国宝、重文12点！中世陶器の重鎮、一堂に会す！

2 開催趣旨

A：一言でいうと（75字）

六古窯^{ろっこよう}とは、中世から続く日本の六つのやきものの産地を指すことばです。本展覧会はこの六ヶ所の産地を中心とした、日本中世のやきもの約150点を紹介します。

B：もう少し丁寧について（206字）

六古窯とは中世から続く瀬戸、常滑、越前、信楽、丹波、備前の六ヶ所のやきものの産地の総称です。この名称は、戦後間もなく小山富士夫によって提唱されました。古代からの系譜を引くこれらの窯場では壺、甕など、日用の品が生産され、中世の生活を彩ってきました。本展覧会は六古窯で生産された作品を網羅的に展示するとともに、国宝「灰釉秋草文壺」を始めとした他産地で作られた古陶を含めた、中世の代表的作品約150点が一堂に会します。

C：詳細について（512字）

五穀を蓄え、また水を溜めるための当時の生活必需品であった壺や甕。その姿に見出される力強さと素朴さは、中世のやきもの大きな魅力のひとつです。これらのやきものは、小山富士夫が唱えた「六古窯」という名称で親しまれ、最も日本らしいやきものとして多くの人々の心をとらえて離しません。

しかし、中世の窯業史観は、近年の全国各地における相次ぐ窯業地の発見によって大きく変貌しつつあります。これまで15世紀末以降には、瀬戸、常滑、越前、信楽、丹波、備前の六古窯に集約され、他の窯業地は消滅したと考えられていました。しかし、ここ30年間に於ける全国各地の窯業遺跡80余ヶ所の発見によって、広域を商圏とした大窯業地から、在地の需要に応じた小規模なものまで、さまざまな窯業形態が明らかになってきました。

今回の展覧会では、六古窯で生産された代表作品を中心に展示すると共に、その他の窯業地で生産された作品もあわせて約150点を展覧します。展示には国宝「灰釉秋草文壺」を初めとして、国宝1点、重要文化財11点を含み、中世のやきもの魅力とその全体像に迫ります。中世窯業史研究の集大成となる本展は、全国5会場を巡回する30年ぶりの大展覧会となります。

3 主催等

主催：茨城県陶芸美術館／「中世のやきもの展」開催実行委員会

後援：NHK水戸放送局／茨城新聞社

協力：茨城県工業技術センター窯業指導所／笠間工芸の丘株式会社

4 会期

平成23年1月2日(日)から3月21日(月・祝)まで68日間

※会期中、一部の作品に展示替えがあります。

前期：1月2日(日)～2月9日(水) 後期：2月10日(木)～3月21日(月・祝)

5 開館時間

午前9時30分から午後5時まで(入場は午後4時30分まで)

6 休館日

月曜、1月11日(火)休館。ただし1月3日、1月10日、3月21日(月・祝)は開館。

7 会場

茨城県陶芸美術館 地階企画展示室

8 観覧料

一般700(550)円 高大生500(400)円 小中生250(200)円

()内は20名以上の団体料金。満70歳以上の方、障害者手帳・療育手帳をお持ちの方及び付き添いの方(ただし1人につき1人まで)は無料。土曜日は高校生以下無料。

9 関連行事

○美術講演会

「中世陶器の研究と鑑賞 -文士たちが愛した焼締陶-」

日時＝2月6日(日)13:30～15:00(予定)

場所＝当館1階多目的ホール(聴講無料)

講師＝森 孝一氏(日本陶磁協会事務局長)

定員150名(先着順・当日整理券を発行)

○ワークショップ

「七輪でミニ古陶!？」

日時＝2月19日(土)、26日(土) 10:00～

定員＝両日参加できる方15名。参加費無料、ただし当日の企画展観覧券が必要。

協力・会場：工芸の丘

○担当学芸員によるギャラリートーク

日時＝1月16日(日)13:30～14:30 予約不要

※参加には観覧券が必要となります。

10 連絡先

茨城県陶芸美術館

〒309-1611 茨城県笠間市笠間2345番地(笠間芸術の森公園内)

TEL 0296-70-0011 / FAX 0296-70-0012

展覧会担当 学芸課学芸員 飯田将吾(いいだ・しょうご)

E-Mail iida.syougo@post.ibk.ed.jp

広報担当 企画管理課主任学芸主事 栗原信雄(くりはら・のぶお)

E-Mail kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

11 ホームページ

<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

12 次回展のご案内

「筑波大学所蔵・石井コレクション東洋陶磁展」(仮称)

※写真掲載する際には、下記の作品キャプションを併記してください。



瀬戸 灰釉牡丹文広口壺 14世紀
重要文化財 東京国立博物館蔵



常滑 大甕 12世紀
個人蔵



越前 大壺 13世紀
福井県陶芸館蔵



信楽 檜垣文小壺 銘富有柿 15世紀
MIHO MUSEUM蔵



丹波 大壺 銘布引 14世紀
兵庫陶芸美術館蔵



備前 四耳大壺 福安（文安）元年銘 1444年
重要文化財 千光寺蔵

※図版使用に際しての注意

- 展覧会の紹介記事への使用に関して、著作権の使用許諾の申請は当館で処理済みです。
- 作品キャプションを表記のとおり入れてください。
- 展覧会の紹介を主たる目的とする内容にのみご使用いただき、他の目的を主とする記事等へのご使用はご遠慮ください。
- 図版への文字乗せ、トリミング等の一切の加工はご遠慮ください。
- 図版は、データで準備しております。当館、企画管理課 栗原までご連絡ください。
(mail:kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp)
- 校正紙をお送りください。